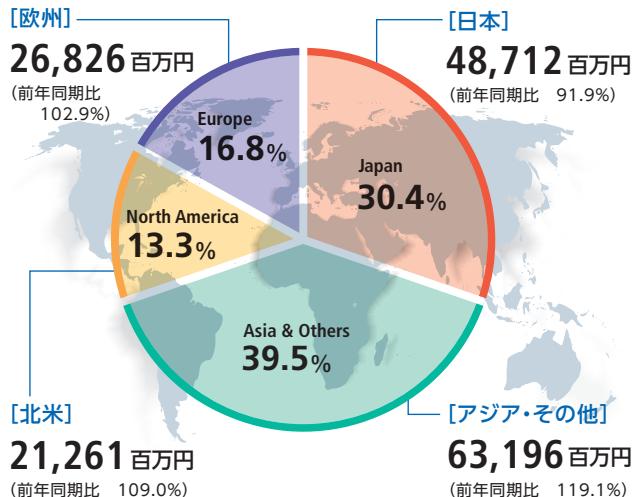


業績ハイライト

科目	第2四半期連結累計期間	
	2014年度	2013年度
経営成績		
売上高 (百万円)	159,995	151,679
営業利益 (百万円)	15,815	10,584
経常利益 (百万円)	16,391	9,822
四半期純利益 (百万円)	10,371	5,668
1株当たり四半期純利益(円)	38.99	21.08

売上高の地域別構成比



売上高のセグメント別構成比

その他

金型等

《売上高》

5,266百万円

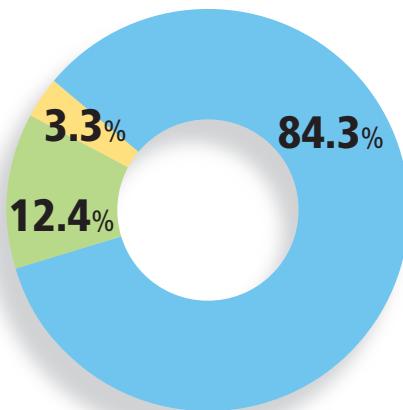
(前年同期比 80.3%)

システム

ハンディターミナル、電子レジスター、
オフィス・コンピューター、ページプリンタ、
データプロジェクター等

《売上高》

19,864百万円 (前年同期比 95.0%)



コンシューマ

ウォッチ、クロック、電子辞書、電卓、
電子文具、電子楽器、デジタルカメラ等

《売上高》

134,865百万円

(前年同期比 108.6%)

《合計》

159,995百万円

(前年同期比 105.5%)

当第2四半期連結累計期間の業績概要

当上半期における内外経済は、景気は緩やかな回復基調にあるものの、個人消費の足踏み感や新興国経済の減速懸念もあり、先行き不透明な状況で推移しました。

この環境下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、対前年同期比5.5%増の1,599億円となりました。セグメント別内訳は、コンシューマが1,348億円、システムが198億円、その他が52億円となりました。

時計は「G-SHOCK」「BABY-G」といったブランドが、アジアや中国などを中心に国内外で好調に推移し大幅な増収となりました。中でも世界初のGPSハイブリッド電波ソーラーを搭載した「G-SHOCK」の新製品は発売以来、順調に売上を拡大しました。また、女性向けメタルアナログウォッチ「SHEEN」が中国を中心に海外で売上を拡大しました。電子辞書と電卓も好調に推移し売上を拡大しました。

損益につきましては、コンシューマは226億円の営業利益となりました。時計は「G-SHOCK」を中心に高価格帯の製品ミックスの拡大、電子辞書と電卓の売上拡大、デジタルカメラは独自のEX-TRシリーズを中心にハイエンド製品の拡大により利益を拡大しました。システムは新規事業の遅れ及びプロジェクター事業の収益悪化を主因として、48億円の営業損失、その他は1億円の営業損失となりました。この結果、調整後の連結合計として158億円の営業利益となりました。また、経常利益は163億円、四半期純利益は103億円の大幅な増益となりました。

通期の業績見通し

現時点での今年度の通期連結業績予想につきましては、前回予想(2014年5月7日公表)に対して変更はありません。

当グループは今後も全世界で通用する独自技術を生かした新製品の積極的な世界展開により、長期的視点に立った収益力強化、経営・財務体質強化に取り組みます。

2014年度通期業績見通し(連結)

売上高	3,500億円 (前期比 108.8%)
営業利益	350億円 (前期比 131.7%)
経常利益	330億円 (前期比 128.2%)
当期純利益	230億円 (前期比 143.8%)